

としょかんだより 第87号

お箏・三絃コンサート



11月26日の17時より、閲覧室におきましてお箏三絃コンサートを開催しました。コンサートには大勢の方のご参加があり、大盛況を迎えました。

2014年 12月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2015年 1月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31
	9:00-21:30				13:00-21:30	
	9:00-17:00				休館日	



糺谷有紗先生
(本学非常勤講師)



森崎雅好先生
(本学助教)



恵良佑美果さん
(本学4回生)



- 千鳥の曲
- 編曲 京鹿の子娘道成寺
- 編曲 春の海
- さくら

皆様、本当に
ありがとうございました



発行所

〒648-0280
和歌山県伊都郡
高野町高野山 385
高野山大学図書館閲覧室
TEL : 0736-56-3835
FAX : 0736-56-5590
E-mail
service-lib@koyasan-u.ac.jp

第5回 図書館戸田文化講座 紙漉き体験



11月30日(日)13時より、戸田文化講座を開催しました。

今回の文化講座は高野山会館で行われました。

講師の飯野尚子さんによる紙を漉くまでの過程と紙漉きの実演が行われた後、実際に参加者の方々が紙を漉いていきました。



今回の紙漉きでは大きさの異なる紙を作りました。

文学逍遙 — 西行の庵 (3) 弘川寺 —

高野山大学教授 図書館長 下西 忠

日本和歌史上最大の歌人といっぴよい西行が文治六年(1191)二月十六日、河内国弘川寺でこの世を去った。七十三歳であった。今西行と呼ばれた似雲(1673~1753)が、石山寺の本尊観音菩薩の夢告により、西行のお墓をみつけたことで、現在西行終焉の地として弘川寺が有名になっている。また西行堂も弘川寺の境内の一角にある。なぜ西行が弘川寺なのかは後日検討したいが、今回は下にしるす和歌をながめてみる。



西行のお墓

藤原定家は西行の死を知り、「建久元年二月十六日、西行上人みまかりにける、をはりみだれざりけるよし聞きて」と記している。ちなみに、文治六年四月十一日に建久と改元されたが、定家はその改元について錯覚していたかもしれない。

定家は西行の見事な死に様を驚きの念で書いたわけだが、「をはり乱れざりける」とは、生前西行が理想とすべき往生をそのまま果たしたということの意味している。

願はくは花の下にて春死なむその如月の望月のころ (山家集77)

どうか、春の、桜の花の咲く下で死にたいものだ。あの釈迦が入滅なさった二月十五日頃に、という意味。高僧が自身の死期を予告し、その通りに円寂した例はある。『今昔物語集』にみえる法華経持経者、理満もその例で釈迦の入滅の日に理満も願いの通り円寂したという。



西行堂

同様に感動したことを歌に詠んでいる。

世間でこの西行歌は辞世の歌だと思っている人があるけれど、けっして純粋な意味での辞世歌ではないことを理解してほしい。

藤原俊成は私家集『長秋詠藻』^{ちやうしゅうえいそう}で、西行の死について、「先年に桜の歌多く詠みける中に」と書いた後、この「願はくは」の歌を記し、さらに「いとあはれにありがたくおぼえて」と感想を述べている。俊成は西行の死について、感動し、めったにないすばらしいことだと賞賛した。ただ俊成は、客観的に西行の歌をながめたとき、伝統的で、一般的な桜の美、はかなさなどをもとめるような歌として認識しているのではなく、仏道者としての生き方の問題としてこの歌を高く評価したと思われる。なお、西行の死について、慈円、良経など時代の歌人も



弘川寺境内